

受けつがれる心

— 岡崎嘉平太 —
おかざき かい た

社会科の学習で、わたしが住んでいる吉備中央町の「大和山」に登ることになりました。大和山はわたしたちの町のシンボルとなっている山なのですが、一度も登ったことはありませんでした。頂上ちようにつきました。まわりを見回してみると岡崎嘉平太さんの「石碑」がありました。

「岡崎嘉平太さんは、となりどうしの国である日本と中国が、もっとなかよくなるように人生をかけてつくした人ですよ。」と、案内あんの方が教えてくださいました。

（岡崎嘉平太さん、どんな人だったのだろう。）

わたしは嘉平太さんのことをもっと知りたくなりました。



岡崎嘉平太
(公財)岡山県郷土文化財団所蔵



望郷の碑
(公財)岡山県郷土文化財団所蔵



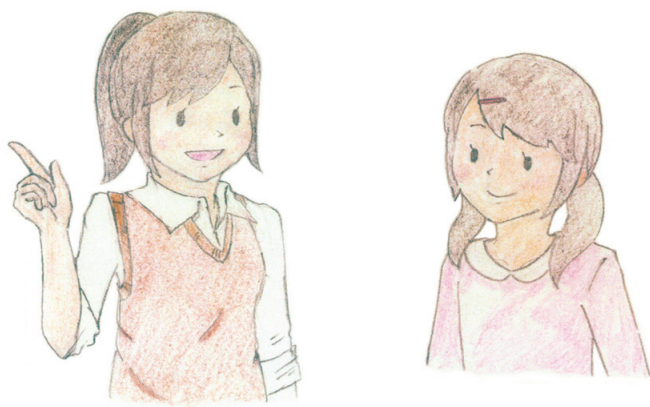
家に帰って、今日の学習で見聞きしたことを中学生の姉に聞いてみました。

「お姉ちゃん、岡崎嘉平太さん^{おかざき かねいた}って、どんな人だったの。」

姉は、話し始めました。

「岡崎嘉平太さんはね、この町で生まれたの。岡崎さんが生まれた時代は、日本と中国はあまり交流をしていなかったの。でもね、子ども^{こども}のころ中国から来た留学生^{りゅうがくせい}となかよくなって、中国のことをたくさん教えてもらったの。そして、その後、交流がなくなったことを悲しく思い、歴史的^{れきし}に深いつながりのある中国と、たがいにもっと助け合える関係^{かんけい}を作りたいというゆめをもつようになったの。そのゆめの実現^{げん}のために生涯^{がい}をかけてがんばった人なのよ。なくなるまでに、なんと百回も中国をおとずれたそうよ。」

「子どものころから、中国の人となかよくしていたんだ。百回も中国に行くなんてすごいなあ。でも、どうしてそんなに何回も中国に行ったの。」



「それはね、中国の人ともっとなかよくなるには、実際に中国に行って人々のくらしを知り、まごころをもって、せつすることが大切だと考えたからなのよ。そんな岡崎さんの人がらのおかげで、なんと、当時の中国の首相ともなかよくなったそうよ。」

「岡崎さんて、すごい人なんだなあ。」

「今、吉備中央町と中国の町の中学生が毎年のように交流をしているのは、岡崎さんの気持ちをわたしたちの町の人や中国の方々を引きついでいるからなのよ。」

そう話す姉の顔はとても、ほこらしく見えました。わたしは姉の話を聞きながら、去年、中国からホームステイにやってきた少し年上の陳さんとのことを思い出していました。

陳さんと出会うまでのわたしは、他の国の人とほとんど話をしたことがありませんでした。そのため、陳さんに会ったさいしょのころは、とてもきんちようしていました。でも、勇気を出して話しかけてみたら、陳さんは一生けんめい話を聞いてくれました。言葉でうまくつたえられないときには、身ぶりや手ぶりでつたえるようにしました。すると、少しずつ思いが通じるようになってきました。本当にうれしかったです。

陳^{ちん}さんはわたしにいろいろなことを教えてくれました。おどろいたことに、「感謝^{かんしゃ}」という字は日本と同じように、「相手の人にありがたいと思う気持ち」という意味になるそうです。同じ漢字を使っているだけでなく、意味まで同じだったことに、わたしはとても感動しました。

陳^{ちん}さんとの生活を思い出したわたしは、言葉や文化がちがっても、分かり合おうとすることの大切さをあらためて感じる事ができました。

わたしは今年、四年生になりました。陳^{ちん}さんとは今でも、ときどき手紙をやりとりしながら、交流をつづけています。今年もわたしの町には、中国をはじめいろいろな国からたくさんの方がこられます。他の国の言葉を勉強して、身ぶりや手ぶりを交^{まじ}えながら、たくさんの人となかよくなりたいなと思っています。



1 主題名 世界の人と仲よく

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

中心とする内容項目は、C 国際理解、国際親善「他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。」である。グローバル化が進展する今日では、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。これらの課題に対応できるようにするためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにすることが求められている。それぞれの国には独自の伝統と文化があり、自分たちの伝統と文化に対して誇りをもち、大切にしているからである。そのことを、我が国の伝統と文化に対する尊敬の念と併せて理解できるようにする必要がある。

そこで、中学年では、それぞれの共通点や相違点、よさなどに目を向けることを通して、他国の人々や文化に関心をもち、世界の人々との親善を図ろうとする態度を養いたいと考える。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、我が国が様々な国々と関わりをもっていることに気付くようになる。また、自分たちの身の回りには多様な文化があることやそれらの文化の特徴などについて少しずつ理解や関心が高まってくる。しかしながら、言葉や習慣の違いから、どう関わってよいのか戸惑う場面もしばしば見られる。そこで、自国と他国の文化の共通点やよさ、他国の人々と関わる喜びなどを感じることを通して、他国の人々と親善を図ろうとする態度を養いたい。



(3) 教材について

岡山県吉備郡大和村（現在の加賀郡吉備中央町）に生まれた岡崎嘉平太は、小さい頃から中国の人々や文化に親しみ、自分の人生をかけて日中の友好に尽くした人物である。

学校の「まちたんけん」で地元の大和山（おおわさん）に登った主人公は、山頂にある岡崎嘉平太の「望郷」という石碑に気付く。興味をもった主人公は家に帰り中学生の姉に嘉平太のことを尋ねてみる。そして姉から、嘉平太が子どもの頃から中国の人と仲よくしていたことや、現在も吉備中央町と中国の町の中学生が毎年のように交流をするきっかけをつくったことを教えられる。その話を聞きながら、去年自分の家にホームステイに来た中国からの留学生である陳さんとの日々を改めて思い出す、という話である。

本時では、姉の岡崎嘉平太の話や、陳さんとの生活を思い出している場面を中心場面にし、岡崎嘉平太の思いや、陳さんとの交流で感じ取った思いについて考えることを通して、言葉や文化が違って、分かり合おうとする気持ちをもって関わることの大切さに気付かせたい。

◇板書例

<p>○他国の人と接したときのこと</p> <p>◇他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちが大切だな。</p>		<p>姉の話や陳さんとの交流を思い出しながら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いが伝わってうれしかったな。 ・中国のことがわかって楽しかったな。 ・思いをつたえ合うことが大切だな。 		<p>姉の話を聞いたとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよくなるためにもっと中国のことを知ろうと思つて百回も行ったところがすごい。 	<p>石碑の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人？ ・日本と中国の交流のために人生をかけてすごい。 	<p>岡崎嘉平太の石ひを見ながら話を聞いたとき</p>	<p>めあて 他国の人と仲よくしていくために大切な気持ちを考えよう。</p>	<p>受けつがれる心 ―岡崎嘉平太―</p>
--	---	--	---	---	--	-----------------------------	--	------------------------

◇参考

岡崎嘉平太（1897～1989年）。吉備郡大和村（現在の加賀郡吉備中央町）生まれ。実業家として日中の平和友好条約の締結に尽力する。

3 ねらい

他国の人々と仲よくしていくために大切な気持ちを考える中で、他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気づき、進んで他国の人々と関わろうとする態度を養う。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 岡崎嘉平太について聞き、めあてをつかむ。	○ 岡崎嘉平太という人を知っていますか。 ・岡崎嘉平太さんは、どんな人かな。 他国の人と仲よくしていくために大切な気持ちを考えよう。	・嘉平太の写真や地図を見せながら、同じ岡山県出身の人であり、日中の友好に尽くした人であることを話した上で、小さい頃から中国の人と仲よくしていたことを話題にし、めあてをもちやすくする。
2 「受けつがれる心－岡崎嘉平太－」を読んで話し合う。	○ 岡崎嘉平太の石碑を見ながら話を聞いたとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・どんな人だったんだろう。 ・日本と中国が仲よくなるように自分の人生をかけたなんてすごいな。 ○ 姉の話を聞いて、わたしはどんなことを思ったでしょう。 ・仲よくなるためにもっと中国を知ろうと思って百回も行ったところがすごいな。 ◎ 姉の嘉平太さんの話や陳さんとの交流を思い出しながら、わたしはどんなことを考えたでしょう。 ・中国のいろんなことが分かったよ。 ・一生懸命伝えようとしたら思いが伝わって、とてもうれしかったな。 ・お互いに分かり合うことが大切だな。 他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちが大切なんだな。	・石碑の写真を示しながら、嘉平太自身が日本と中国の友好を願いながら石碑を建立したことを補説し、日中の友好に尽くそうとした嘉平太にひかれている主人公に共感することができるようにする。 ・「わたしは嘉平太さんのどんなところがすごいと思ったのかな。」と問いかけ、嘉平太の生き様に深く感銘を受けている主人公の思いに目が向くようにする。 ・最初は緊張して陳さんに話しかけることができなかったことにふれ、他国の人々と関わることに躊躇しがちな気持ちについて考えることができるようにする。 ・「たくさんの人と仲よくなりたい」と思うようになった根拠を問い、ペアや全体で話し合うことを通して、嘉平太の思いを受け継いで、他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気付けるようにする。
3 今までの自分を振り返る。	○ 他国の人のことを理解しようとしながら接したことがありますか。 ・ALTの先生との学習で、とても緊張したけど話しかけてみたよ。 ・地域のお祭りで他国の人と話せて、思いが通じたときうれしかったよ。	・他国の人のことを理解しようとしながら接することができたときのことを話し合い、他国の人と仲よくしていくことの楽しさや喜びを感じ取ることができるようにする。
4 教師の話を聞く。	○ 先生の話をお聞きしましょう。 他国の人のことを理解しようとしながら関わり、仲よくしていきたいな。	・教師の体験を聞くことで、他国の人々のことを理解し、進んで関わろうとする意欲が高まるようにする。
評価の観点	・他国の人のことを理解しようとしながら接する気持ちの大切さに気付くことができたか。 ・他国の人のことを理解しようとしながら、進んで関わろうとする意欲を高めることができたか。	

5 他教科等との関連

日常生活の中でALTの先生と交流する機会を設け、積極的に関わろうとした姿を称揚する。